



TSUYAZAKI 1000GEN プロジェクト

津屋崎千軒に魅せられた若者たち

津屋崎の自然、まち並み、夕陽、そして人情。津屋崎の魅力にとりこになり、実際に移り住んだ若者たちが、独自の取り組み(TSUYAZAKI 1000GEN プロジェクト)により、津屋崎の素晴らしさを全国に発信しようと日々頑張っています。津屋崎千軒の一角にある空き家を利用して、「NPO法人地域交流センター津屋崎ランチ」と名付けられた事務所で働く若者たち。今回は、その活動の一部を紹介したいと思います。

※このプロジェクトは、福岡県ふるさと雇用再生特別基金事業補助金を活用して、市が企画公募をした結果、採用した企画であり、平成22年度にかけてNPO法人地域交流センターとの共働事業として実施するものです。

津屋崎千軒を核とした 移住・交流プロジェクト

福岡市と北九州市のほぼ中間に位置する津屋崎市。福岡都市圏まで車で約四十分という交通至便な場所でありながら、美しい海や緑あふれる山々に囲まれ、自然豊かなまちでもあります。特に津屋崎地域は、ウミガメが産卵する美しい砂浜やカブトガニが生息する干潟など、自然に恵まれた地域です。

都会の近くにありながら、自然にも恵まれている、そんな「半都会・半田舎」とも呼べる津屋崎の中で、ひととき古いまち並みが色濃く残っている地域が津屋崎千軒。農山村地域とは違って、狭い敷地に建物が所狭しと並んでいるまち並みは、かつて栄えていた時代を思い起こさせます。しかしながら、最近では空き家や空き地が目立ち、若い人たちの地元離れも進んでいます。

「こんなにすてきなまちなのに、どうして人が集まらないのか。どうして人が離れていくのか」。そんな素朴な疑問を持った若者四人が立ち上げた計画が、「TSUYAZAKI 1000GEN プロジェクト」です。何だか難しそうな名称ですが、「1000GEN=千軒」。つまり、津屋崎千軒を中心にして、実

際に津屋崎に移り住むことで、新しい視点で人と人、土地と人をつなぎ、津屋崎の魅力为全国に発信することで、興味を持った人たちが、いずれ津屋崎に移り住んでもらうことを目的とした取り組みです。

具体的な活動内容は？

この取り組みには具体的な三つの柱があります。

① 津屋崎の美しさや住みやすさをプロモーション

主にインターネットを利用して、スタッフの日常の出来事やこのまちに暮らすために必要な情報(例えば保育園、不動産、お店など)を、実際に暮らしている人の目線で伝えます。

② 全国初の取り組み「エデュケーション・ナレッジ・プラットフォーム(新しいまちづくりの学校)」

学習交流という新しい概念の交流に取り組み、観光とは違う視点で「学びのために来る」「学びあって帰る」ことを実践します。

具体的には、津屋崎千軒内の公共施設や空き家などを活用し、学識者やまちづくりの実践者を招いて、一泊から二泊の合宿形式のまちづくり

学校を開催します。新しい切り口でまちづくりを考える内容にして、福津市の自然や歴史資源、そして人的資産を活用した文化学習交流を行います。

③ 移住者が実際に暮らせるための仕組みづくり(空き家の保存・活用)

文化学習交流やまちの情報発信を通じて、移住したい人が現れると予測しています。そこで、現在空き家で借家として貸してもよいという所有者と連絡を取り、空き家の持ち主、地域の人の、移住したい人の仲介を目指します。例えば、短期間の移住体験などを通して、地域のひととの交流の場を設けるなど、地域の不動産の

活性化の手助けをします。

人が訪れる

地域交流センターのスタッフは移住してまだ日が浅いのですが、人情味の厚い津屋崎の人柄によって交流の輪が広がっています。例えば、事務所を訪れた地域のひととの世間話からいろいろな人を紹介してもらったり、地域のイベントをお手伝いして交流を深めています。

また、市外に住むスタッフの友人が津屋崎に遊びに来て、美しい海や地域のひととの交流に感動し、帰るころにはすっかり津屋崎のファンになったということも度々あります。このように地域交流センターでは、徐々に地域の内外で人のつながりが広がっています。



▲津屋崎千軒なごみ



▲第2回ふくつまつりで野菜などの販売をお手伝い



謹賀新年



TSUYAZAKI 1000GEN プロジェクト

NPO法人地域交流センター 津屋崎ブランチのスタッフたち

顔をみかけたら
声を掛けてくださいね!

ホームページアドレス <http://1000gen.com/>
Eメールアドレス info2010@1000gen.com



近々、古民家風に改築予定

新 年明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、清々しく平成二十二年の新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。さて、わが国経済は、一昨年の米国発リーマンショックに端を発した世界同時不況の影響を受け、一〇〇年に一度とも言われる未曾有の経済危機に瀕し、厳しい経済状況が続いています。

その建設が待ち望まれていたまちおこしセンター「津屋崎千軒なごみ」がオープンいたしました。また、二月には、本市の玄関口の一つであるJR福岡駅の新駅舎が完成する予定です。このように、本市の未来に明るい兆しが見え始めたとは言え、厳しい行政環境であることや、まだまだ多くの行政課題が山積していることも事実です。

な誇れるまちを目指し、市民が主役の市政を推進する決意を新たにしていくところです。職員一同気を引き締め、全力で取り組んでまいりますので、本年も皆さまの変わらぬご協力をお願いいたしますとともに、新しい年が皆さまにとりまして、良い年となりますように心からお祈りいたします。新年のごあいさつとさせていただきます。

平成二十二年元旦

福津市長 小山達生

小山市長が津屋崎ブランチのスタッフと事務所で開催を行いました
(山口さん) 自然の素晴らしさや人の温かさが当たり前になってきているこの地域の魅力を、何とかして全国に発信したいと思っています。
(市長) 友人が海岸線に沈む夕陽を見て非常に感動したのを覚えていますが、確かに夕陽はきれいだと思いますが、幼いころから海岸線に夕陽が沈む光景を見ていた私にとって、そこまで感動するのは不思議に感じていました。
(山口さん) 実際に四人の若者が、津屋崎に魅せられて移り住んでできま

した。ある意味せいたくなこの空間を多くの人に知ってもらうことが私たちの使命と思っています。
(市長) このまちに魅力を感じて、実際に他市町村から移り住んでもらったことが何よりもうれしく思います。
(木村さん) 自転車に乗ることが好きなのですが、津屋崎は自転車乗りが集まるまちになりつつあるようです。「ブルベ」という数百キロをサイクリングするスポーツがあるので、津屋崎公民館横のハーモニー広場はそのスタート地点として、各地から参加者が集まっています。
(坂田さん) 福岡には福岡の魅力がありますが、津屋崎にもたくさん魅力があります。福岡から移り住ん

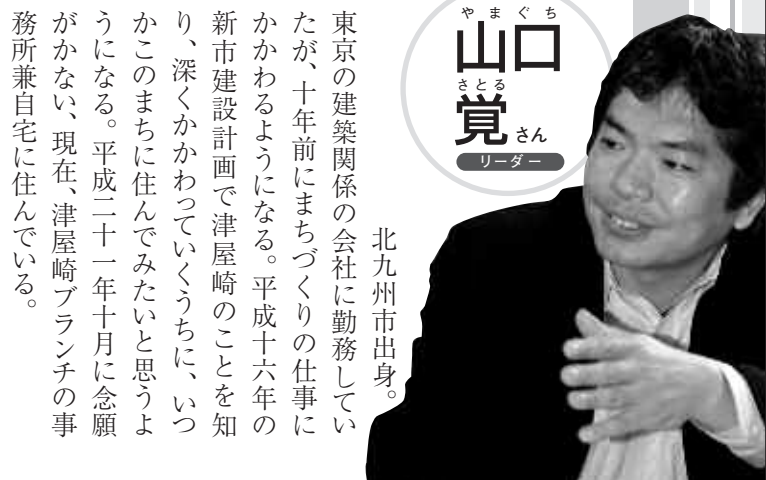
だ両親ともども実感しています。
(都郷さん) 家族ではない人のことも、まるで自分の家族のこのように気遣っている地域の人の温かさに非常に感動しています。
(市長) 新しい目、若い目、真摯な目で意欲を持ってまちづくりに取り組んでいるあなたたちの活動に心から期待しています。津屋崎の魅力を全国に発信する「津屋崎の営業マン」として頑張ってください。市としても、できる限りバックアップしたいと思います。

NPO法人地域交流センター
津屋崎ブランチ
津屋崎四一五一七七



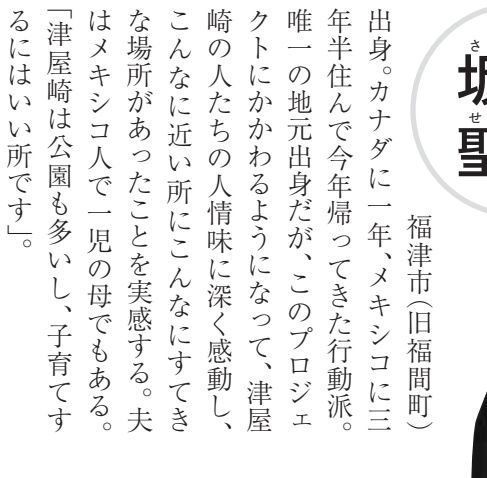
木村航さん

埼玉県出身。東京で商社に勤めた後、イタリア料理のレストランでアルバイトをしていた。



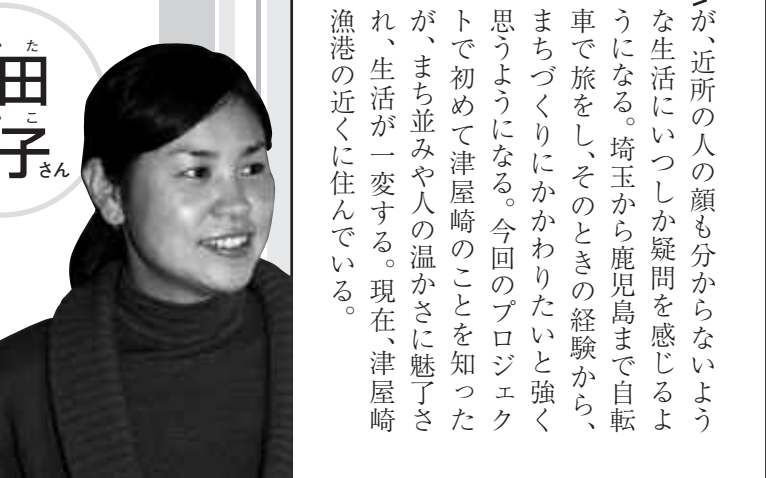
山口覚さん

北九州市出身。東京の建築関係の会社に勤務していたが、十年前にまちづくりの仕事をかかわるようになる。平成十六年の新市建設計画で津屋崎のことを知り、深くかかわっていくうちに、いつかこのまちに住んでみたいと思うようになる。平成二十一年十月に念願がかない、現在、津屋崎ブランチの事務所兼自宅に住んでいる。



坂田聖子さん

福津市(旧福岡町)出身。カナダに一年、メキシコに三年半住んで今年帰ってきた行動派。唯一の地元出身だが、このプロジェクトにかかわるようになって、津屋崎の人たちの人情味に深く感動し、こんなに近い所にこんなにすてきな場所があったことを実感する。夫はメキシコ人で一児の母でもある。「津屋崎は公園も多いし、子育てするにはいい所です」。



都郷なびさん

京都府出身。大分での大学生活を経て岡垣町の企業に就職。海岸に沈む夕陽を見るためだけに津屋崎に来ていたこともあり、以前から大好きな場所の一つだった。もともとまちにかかわる仕事があったらいいと思い、新しい仕事を探していたときに今回のプロジェクトを知る。大好きな津屋崎に住むことができ、日常のさりげない生活に日々感動を覚えている。

